

新聞を活用した小論文指導および公民科による授業研究

宮崎県立飯野高等学校
教諭 飯田 正

1 はじめに

本校は、各学年普通科2クラス、生活情報科1クラスからなる小規模校である。入学してくる生徒は、学力の差が非常に大きく、また、希望進路も国公立大学から就職までと多種多様であり、進学希望者の大多数は推薦入試を利用する。これらの事を踏まえ、生徒への学習指導や進路指導については、学習意欲の向上、各教科の基礎・基本の定着、多岐に渡る希望進路先に対応した指導体制の整備等が課題となっている。

2 新聞を活用した学習指導に至った経緯

推薦入試の多くは、志望理由書、小論文、面接が課される。就職試験においても、履歴書、作文、面接試験が課される場合が多い。これらのことから、文章表現力、コミュニケーション能力、基礎学力・一般常識等の力が希望進路達成には欠かせない。これらについては、一昨年度までは、3年次6月からの個別指導（生徒一人一人を全教員に割り振り、進路達成まで指導する）を中心に育成を図ってきた。しかし、これらの力が短期間に身につくものではないことは周知の事実であり、多くの職員が早い段階からの組織的な指導体制整備の必要性を指摘していた。そこで、一昨年度末に進路指導部、国語科、地歴公民科、各学年をメンバーとする「小論文プロジェクト委員会」を立ち上げ、効果的かつ効率的な指導法の研究をスタートした。そ

の中で本校生徒の課題として、

- ①小論文・作文を書けるだけの知識がない。
- ②丁寧な字を書くことができない生徒が多い。
- ③小論文がどのようなものか分かっていない。

等が指摘された。この課題の解決方法として、新聞を活用した指導が効果的であると判断し、この取り組みをスタートした。

3 取り組みの推移等

昨年度4月から、毎週月曜日の朝課外において、全校一斉に新聞記事を読ませ、それを丁寧に書き写す指導を行った。これは、新聞記事を読むことで時事問題に関心を持たせると同時に一般常識を身につけさせ、丁寧に書き写すことで「書くこと」への抵抗感をなくさせることを目的とし、その後の小論文指導に繋げていくことを考慮してのものであった。

12月に入り、プロジェクト委員会で次のステップへの検討を開始した。ポイントとしては、

- ①現行の取り組みを発展させること
- ②系統立て、体系化すること
- ③全職員で関わること
- ④常時指導として発展させていくこと

である。この結果、次のような二本立てによる本年度の取り組み（研究）がスタートした。

- (1)新聞を活用した、全校生徒対象の全職員による小論文指導

(2)新聞を活用した、3年生「政治・経済」選択生37名対象の公民科による授業研究

4 本年度の取り組みの詳細

(1)新聞を活用した、全校生徒対象の全職員による小論文指導

次の①～⑤を1セットとして、年間8セットを実施

①NEWSワーク I

生徒活動：問題に取り組む

(1学年の1学期は書き写し)

実施時間：朝課外

担 当：担任

②NEWSワーク II

生徒活動：問題に取り組む

(1学年の1学期は書き写し)

実施時間：朝課外

担 当：副担任A

③NEWSワーク III

生徒活動：問題に取り組む

(1学年の1学期は書き写し)

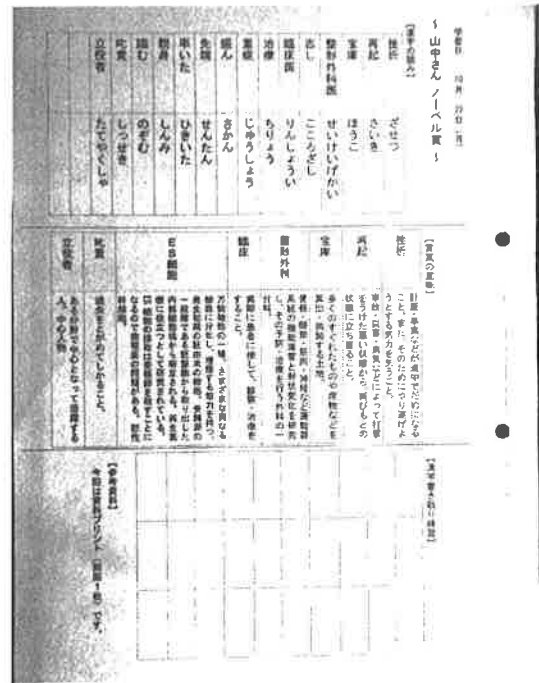
実施時間：朝課外

担 当：副担任B

<NEWSワーク表(例)>



<NEWSワーク裏(例)>



④小論文(1学年の1学期はワークI～III)

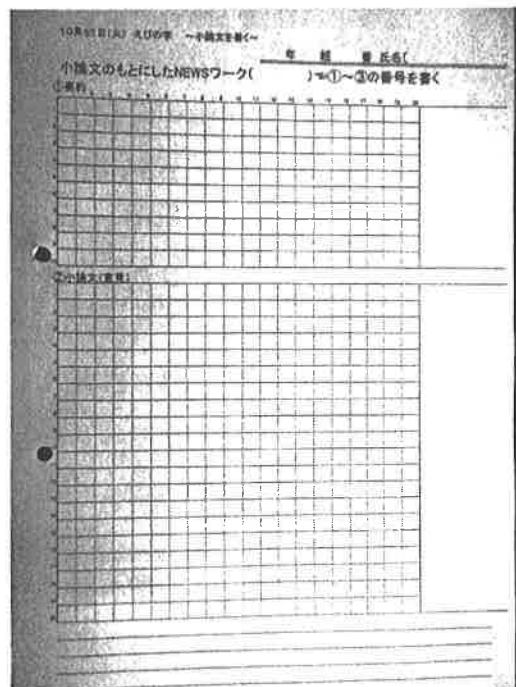
生徒活動：小論文600字に取り組む

(1学年はワークに取り組む)

実施時間：総合的な学習の時間

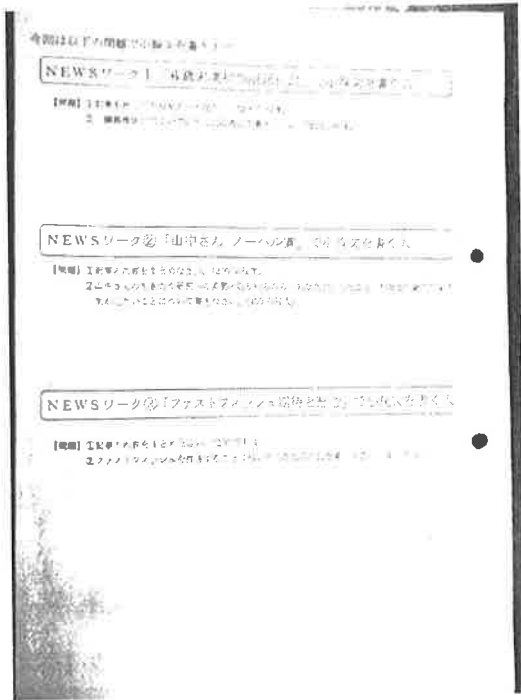
担 当：担任、副担任A、Bで輪番

<小論文原稿用紙>

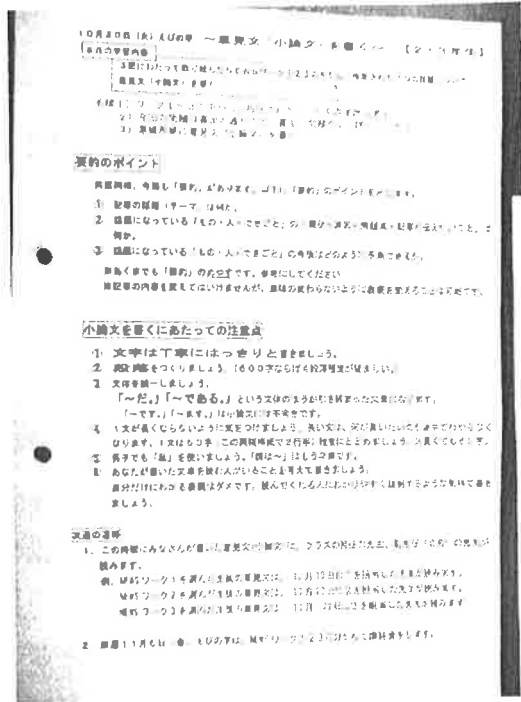


(注1) ④については、NEWSワークI～IIIから生徒が選択し意見文(小論文)を書く

< (注1) の資料 (例) >



< 小論文の注意事項等 (例) >



⑤講評会(1学年の1学期は小論文)

生徒活動：講評・討論

(1学年は400字小論文)

実施時間：総合的な学習の時間

担 当：担任、副担任A、B

(注2) ⑤については、④で選んだ内容ごとに3グループに分け、担当3人で分担して指導

(注3) 本校は1クラスを担任1人、副担任2人の合計3人で担当

(2)新聞を活用した、3年生「政治・経済」選択生37名対象の公民科による授業研究

1年間の流れは次の通り

①新聞に関するアンケートの実施

・新聞を読んでいますか

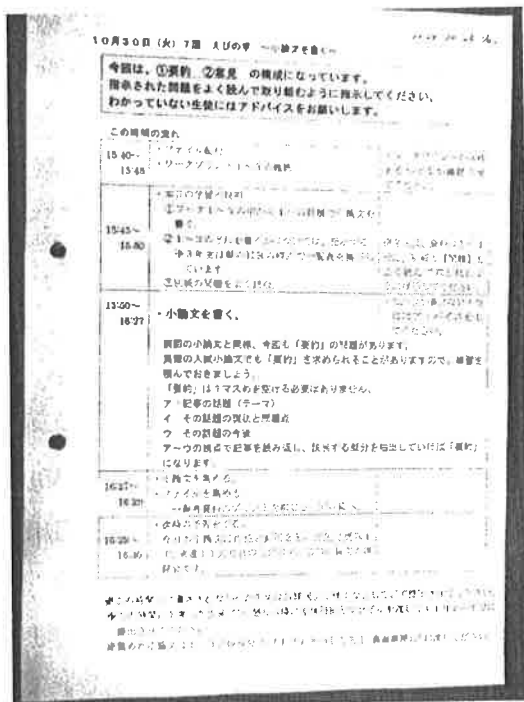
はい…20名、いいえ…17名

・新聞を読むことは自分のためになると思いますか

はい…37名、いいえ…0名

新聞の必要性は感じているが読んでいない生徒が多いことがわかった。

< 小論文指導案 (例) >



②環境整備（「新聞情報コーナー」の設置）

教室棟の廊下に「新聞情報コーナー」を設置し当日の新聞を並べた。生徒の反応は早く、毎日の新聞を楽しみにする生徒まで現れた。

＜新聞情報コーナー＞



③授業での活用

授業において教師が新聞を持参し、導入部分で生徒に視覚的に説明した。また、生徒に自分の気になる新聞記事を要約させ、考えを述べる機会を増やした。

＜授業の様子＞

（調べ学習）



（討論）



④「ニュース時事能力検定」の受検

日本ニュース時事能力検定協会主催のニュース時事能力検定3級を受検させた。受検に

向け生徒の新聞に対する意識は更に高まり、積極的に情報コーナーに足を運び新聞を読む姿が見られるようになった。

検定結果は37名受検、18名合格

＜ニュース検定＞

（受検風景）



5 成果と展望

小論文指導については、生徒アンケートにおいて「小論文の書き方が分かるようになった」「社会的ニュースを知ることは必要だと感じた」「漢字が書けない、言葉を知らないことに気付いた」という生徒が多いこと、「ニュースを見る」「新聞を読む」「日常会話で話題とする」など新たな行動を始めた生徒が増加したことなど、生徒の変化が伺える。また、教員も「小論文らしい文章、締まった文章」を書くことができる生徒が増加していると感じている。

授業研究については、「社会の出来事に関心を強く持つようになった」「新聞記事に対する意見を自ら発言するようになった」という生徒の変化が報告されている。

本指導における成果については、上記のように心証的なものに留まってはいるが、この取り組みの継続により生徒の力は向上し、希望進路達成や自立に繋がると確信する。今後も次年度以降の充実した指導に向け、検証・改善を行っていきたい。